北朝鮮の動向
（株）日本抵抗器製作所　代表取締役社長
東京京浜 RC　木村　準様

卓話者紹介　　**山下　憲男委員長**

１９７１年　慶應義塾大学工学部卒
１９７２年　米国ナショナルコントロールズ社入社
１９７５年　株式会社日本抵抗器製作所入社
１９９２年　代表取締役社長に就任　現在に至る
２００７年　東京京浜ロータリークラブ会長
２０１４年　2750 地区職業奉仕委員会副委員長

■政治動向

北朝鮮労働党大会：5 月 6 日：北朝鮮は 36 年ぶりに北朝鮮労働党大会を開催した。金正恩第一書記長は意外にも背広姿で壇上にたった。第一書記長の左には、序列第 2 位、金永南、最高人民会議常任委員長が座り、右側には、序列第 3 位、黄炳瑞、朝鮮人民軍総政治局長が座った。党序列に大きな変化はなかったが、序列第 4 位には朴奉柱、内閣総理が位置し、序列第 5 位には、崔龍海、政務局副委員長が座った。序列 20 位までは 80 代、70 代で占めているが、崔龍海は 66 歳と北朝鮮の指導者としては若いのが目立っている。しかし彼は一時序列 3 位に昇ったが、突然行方不明となって、「粛清されたか」と報道された。しかしカムバックして、序列第 5 位に座っている。

6 月 1 日、北朝鮮高官李洙墉（リ・スヨン）氏が習近平総書記と会談した。背後には朴槿恵・韓国大統領の親北朝鮮アフリカ諸国歴訪と、それ以前の米国による中韓蜜月離間外交がある。

■ミサイル発射

北朝鮮はここの所ミサイル発射を立て続けに行っている。6 月 23 日に、グアムまで届くムスダンを成功させ、8 月 3 日にはノドンを秋田県沖 250km の排他的経済水域に着水させた。そして 8 月 24 日潜水艦から弾道ミサイルを水中発射し、500km 飛行、ミサイルは日本の防空識別圏に落下した。

■核保有

北朝鮮は今年 1 月、4 度目の核実験を成功させたが、今回は水爆実験だったと発表している。

昨年 2 月米国ジョンズホプキンス大学ジョエル・ウィット研究員は「北朝鮮の保有核兵器はプルトニウム型が６～８個、ウラニウム型が４～８個」と明らかにした。また、「プルトニウム型核兵器は、中距離ノドンミサイルやテポドン２号ミサイルに搭載するのに充分なほど小型化された」と述べた。

■体制崩壊

米国のウェンディ・シャーマン元国務次官は 5 月 3 日、朝鮮半島関連セミナーの昼食会で発言し、「北朝鮮で内部崩壊またはクーデターが起こる可能性を想定するのは不可欠であり、韓国と米国、中国、日本が速やかに協議を行うべきだ」と述べた。

米軍と韓国軍は北朝鮮崩壊に備え、作戦計画 5029 を策定している。想定は　①北朝鮮におけるクーデター、革命、大規模亡命・大量脱北、大量破壊兵器流出　②北朝鮮国内における韓国人人質事件、大規模自然災害、③その他「体制を動揺させる急激な変化」が発生した場合である。

3 月 7 日から 4 月 30 日まで米韓合同軍事演習が行われたが、この演習では「5015 作戦計画」に基づいた演習が行われた。「5015 作戦」の核心は「斬首作戦」である。奇襲攻撃をかけて、権力指導部を排除し、攻撃を未然に防ぐ作戦のことである。「斬首作戦」で要人の暗殺を担うのが米陸軍第 75 レンジャー連隊である。同連隊は 2011 年に邸宅でビン=ラーディンを殺害したが、核・ミサイルの除去、制圧だけでなく、金正恩第一書記ら指導部を暗殺する役割を担っている。

■日本への脅威

北朝鮮が日本をミサイル攻撃する場合に用いられる弾道ミサイルは、スカッド-C を改良したスカッド-D とノドンならびにノドン-2 である。最大射程距離が 700 キロメートルのスカッド-D の場合、岡山県から長崎県にいたる中国地方と九州北部が攻撃圏に入る。

最大射程距離が 1300～1500 キロメートルのノドン、ノドン-2 ならば、日本全土が攻撃可能だ。
朝鮮人民軍は、それらの対日攻撃用弾道ミサイルを 300 基程度保有しており、地上移動式発射装置（TEL）もスカッド用、ノドン用それぞれ 50 両以上は保有している。

北朝鮮は少なくとも 100 発の各種弾道ミサイルを日本に対して連射できる攻撃能力を保有していることになる。

閉会点鐘　　**小田　孝志会長**

創　立／1993 年 10 月 13 日(平成 5 年)
事務局／〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-2
ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾒｿﾞﾝ九段 906 号
Tel：03-3288-7300 Fax：03-3288-7400
E-mail：ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp
http://tokyo-orc.jp/

例会日 毎週水曜日　12:30～13:30
例会場 ホテルグランドパレス　Tel：03-3264-1111
会　長 小田　孝志　　幹事 奥山　聡
会　報 八木　壮一（委員長）松島　健（副委員長）
大原正道 佐々木啓策 山下秀一 山下憲男(委員)